



ワシントン日本語学校(補習授業校)だより



はなみずき

mail: wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



ワシントン日本語学校事務局

HOT LINE (301)962-7415

Phone (301)962-7410

FAX (301)962-7411

異年齢交流活動の意義

校長 三原 洋一

近年、都市化や少子化、地域社会における人間関係の希薄化が進む中で、本校では、子どもたちの豊かな成長に欠かせない人や社会、自然と直接触れ合う体験的な学習を重視しています。

文部科学省のホームページでは、体験活動について次のように示されています。

体験活動とは、文字どおり、自分の身体を通して実地に経験する活動のことであり、子どもたちがいわば身体全体で対象に働きかけ、かかわっていく活動のことである。この中には、対象となる実物に実際に関わっていく「直接体験」のほか、インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」があると考えられる。しかし、「間接体験」や「擬似体験」の機会が圧倒的に多くなった今、子どもたちの成長にとって負の影響を及ぼしていることが懸念されている。今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。

体験活動は、豊かな人間性、自ら学び考える力など、生きる力の基盤として、また子どもたちの成長の糧としての役割が期待されています。

本年度、本校では異年齢の交流活動、いわゆる「縦割り活動」を積極的に取り入れています。前期の6月15日に実施した「青空ピ



クニックデー」では、メサフィールドやハミルトンの裏庭で、5歳から17歳までの全校生徒が昼食を共にし、ゲームを通じて交流を深めました。

『はなみずき』の13号で生徒の感想を紹介した通り、この活動は大変好評で、異なる学年の生徒たちが協力しながら共に成長する貴重な機会となりました。この体験的な学習を通じ、次のような効果が得られたと考えています。

○上級生のリーダーシップと上級生への憧れ

縦割り活動では、年上の生徒が年下の生徒をリードし、支援する役割を担います。年下の生徒との接し方や助け方を学ぶことで、リーダーシップが自然に育まれます。また、年下の生徒も上級生を目標にし、成長への意欲を高めることができます。

○多様な視点と協調性の向上

異年齢の生徒が一緒に活動することで、異

る年齢や考え方をもつ人との交流が自然に生まれます。このような経験は、協調性を養うとともに、柔軟な思考や新しい視点を取り入れる力も培います。将来、多様な人々と関わる社会で活躍する基礎が築かれます。

○自己肯定感と成長の実感

年下の生徒をサポートしたり、活動を成功させたりする中で、子どもたちは自分の成長や役割を実感し、自己肯定感が高まります。また、年下の生徒も活動を通して挑戦し、上級生の支えを受けながら成功体験を重ねることで、勇気や自信を育むことができます。

今年は生徒会主任の提案により「秋のピクニックデー」と題して第2回ピクニックデーを、次週



23日に開催することとし

ました。今回も幼稚部年中組から高等部2年生までの生徒が縦割りグループを作り、各教室で昼食や交流活動を行います。

さらに、今回はスピリットデーも同時に行い、生徒会委員が決定した各グループのテーマに基づいた服装で活動します。右の表がペア学級とテーマの一覧です。23日の生徒の服装は強制ではありませんので、各ご家庭で対応できる範囲でご協力いただければ幸いです。



ペア学級とテーマ

ドジャーズ 青・大谷祥平	幼 年中 A	高 2
	幼 年中 B	高 2
	幼 年長	高 2
わ 和 (日本に関係したもの)	小 1 A	高 2
	小 1 B	中 3A
	小 1 C	中 3B
パジャマ	小 2A	中 2A
	小 2B	中 2B
	小 2C	中 1A
	小 2D	中 1B
パジャマ	小 3A	小 5A
	小 3B	小 5B
	小 3C	小 5C
	小 3D	高 1
クリスマス	小 4A	小 6A
	小 4B	小 6B
	小 4C	小 6C
	小 4D	高 1

ピクニックには、グループのテーマの服を着て来てね。



今後も本校では、このような異年齢の交流活動を通じて、児童・生徒たちが互いに学び合い、共に成長できる環境を提供してまいります。引き続きご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

— 授業参観最終日 —

今週で授業参観日は終わりです。たくさんのご参観をありがとうございました。また、入口AとCに設置しております「授業参観アンケート」へのご協力にも感謝いたします。いただいたご意見等は、今後の学校経営に生かしてまいります。

